



27日は、NPOの象徴的活動の1つとして、設立当初から大野製炭工場さん（珠洲市）と連携して取り組んできた「おらっちゃんの森づくり」事業です。市内外から100名を超える方々が参加しました。記念すべき第一回は2009年11月7日、NPO法人グリーンウエーブさん（東京都）から植林活動への支援としてご寄付いただきスタートしました。その後もセブンイレブンみどりの基金や、独立行政法人環境再生保全

「NPO法人能登半島おらっちゃんの里山里海」は、2008年8月25日に設立しました。2018年は設立してからちょうど10年目の節目の年になります。これを記念して、10月27日と28日の二日間、この10年を支えてくれた方々に声をかけて、10周年記念事業を行いました。



10周年を記念して、金沢美大ス

機構地球環境基金、同企業協働プロジェクト（LOVE BLUE）の助成を受け、途切れることなく続け10回目を迎えました。夜は、奥能登国際芸術祭の作品でもあった、さいはてのキャバレー準備中”で記念パーティーです。懐かしい方々とこの10年を振り返り、楽しいひと時を過ごすことができました。

翌28日は、金沢大学能登学舎で「記念シンポジウム」を開催しました。これまで大きな支援をいただいていた金沢大学に感謝状を贈呈し、同大学名誉教授の中村浩二先生が「おらっちゃんの里山里海への大きな期待」と題して基調講演をしてくださいました。

シンポジウム終了後には、10年間マイスターやスタッフの「お腹」を満足させてきたへんざいもんの、スペシャルランチをいただき、2日間の10周年記念事業を無事終了しました。



10周年を記念し作成したロゴマーク



おらっちゃんの これまで・これから

金沢大学は2006年、閉校して2年が経っていた旧珠洲市立小泊小学校の校舎を利用し、「能登半島里山里海自然学校」をオープンしました。「せっかくなので金沢大学の活動をみんなで応援しよう!」と、市内在住の約20名が集まり任意団体”珠洲サポート会”を立ち上げ、水田や山林でのフィールドワークのお手伝いを始めたことが私たちの活動の始まりです。

当時は、これまでの効率性・生産性が評価される時代から、持続可能な生物文化の多様性へと転換しつつある時期でした。自然環境をどう評価し守っていくか、それが自分たち地域の産品の価値を向上してくれるのか、環境で飯が食えるのか、といった認識から大きな転換期でもありました。金沢大学能登学舎は、世界農業

遺産(GIAHS)認定の大きな要素となった人材育成事業「里海マイスター」を中心に、全国的にも注目され評価されるさまざまな活動を展開しています。

NPOおらっちゃんはこの間、設立の契機ともなった金沢大学のサポートを中心に、契約保全林の整備や水田での米作りと生きものの観察、大野製炭工場との植樹活動などの保全活動に加え、ジュンサイやシイタケなどの里山資源の栽培収穫、保全林での巣箱設置や観察会などの里山活動、さらにはクリーンビーチやアサギマダラ観察などの里海活動など、多様な会員の増加に合わせて、ますます多様な「里山里海活動」を地道に継続してきました。

奥能登エリアでは初の自然環境系のNPO法人として、こうした活動を継続できたことは、保全活動の場を提供いただいた地権者をはじめ、金沢大学、珠洲市、また設立当初、経済基盤が弱い弱だった時期に大きな財政支援をいただいた東京のNPO法人グリーンウェブ、事務局運営にか

かわっていたいただいた歴代関係者など、列挙しきれないさまざまな関係団体、関係者の皆さまのご支援のおかげです。

2018年6月に、珠洲市がS

DGs未来都市となりました。これまで以上に、市内外から多種多様な方々が珠洲市を訪れると思います。こうした時代の変化にも対応できるNPO法人として、珠洲市をはじめとした奥能登全体の自然環境を守り活用していく役割を担っていきましょう、会

員一同取り組んでまいりたいと思います。

(専務理事・金田直之)

事業名/事業年度	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
ふるさと雇用再生事業(珠洲市)											
循環型社会形成事業(環境省)											
田舎で働き隊(農水省)											
いしかわ県民参加の森づくり											
グリーンウェブ(おらっちゃんの森づくり)											⇒地球環境基金事業で継承
こども森の恵み											
ISICO(石川県産業創出支援機構)											
先駆的里山保全事業(県環境部)											
緊急雇用事業(珠洲市)											
松茸山再生事業(能登島町)											
里山里海ミュージアム事業											
すず親子の自然学校											
里山市場事業											
耕作放棄地(放牧)											
耕作放棄地(蜜蜂)											
セブンイレブン											
まるやま組											
環境省事業											
地球環境基金											
地球環境基金(つり)											
民間提案型雇用創出事業											
起業支援型地域雇用創出事業											
商工会議所委託事業											
珠洲の里山いきもの観察会											
林野庁森林・山村多面的機能発揮対策交付金											
石川テレビえこーるキャンペーン事業											
サントリー基金											
北陸労働金庫											
こどもゆめ基金											
鉢ヶ崎ケビン連携事業											

保全活動・調査など

その他事業

NPOの活動目的は、里地・里山・里海の環境保全です。このため活動の中心は、保全林の整備やビオトープの維持管理などの保全活動と、良好な自然環境が維持されているかどうかの調査活動になります。2018年の保全活動には延べ380名の方が参加してくれました。毎月第2・第4土曜日を保全活動の日と決め、暑い8月は避けて活動を続けています。



ウ、砂ガニ、野鳥、ホタルなど多岐にわたっています。2018年の活動の一端を紹介します。

ます。調査活動は、アサギマダラやアマリガニ、ドジョ

寒い冬は、保全林を整備して木を切り出し、これをホダ木としてシイタケを栽培しています。山の環境を守るだけでなく、シイタケを販売した収入はNPOの活動財源にもなっており、乾燥シイタケも含めると32万円余りを売上しました。年末には、不要となったビニールハウスを無償提供いただき増築しました。

春は、ビオトープ田んぼで田植えの時期です。秋の収穫祭でつきたての餅を販売するため、もち米を植えます。昨年からは、栽培を始めた学舎横の田んぼには、「ひやくまん穀」を植えました。10月の「おらっちゃんの森づくり」で、おにぎりにして参加者に提供しました。皆さん「おいしい」

2018年度保全活動

	内容	参加人数
3月10日	シイタケホダ木の切り出し	2名
3月11日	鉢ヶ崎クロマツの植林	30名
3月17日	シイタケ原木に菌入れ	8名
3月20日	シイタケ原木に菌入れ	1名
3月24日	シイタケ原木に菌入れ	3名
3月31日	シイタケホダ木移動	2名
4月7日	シイタケ原木に菌入れ	3名
4月13日	乾燥シイタケづくり	5名
4月21日	小泊ビオトープの整備	6名
4月26日	乾燥シイタケ袋詰め	2名
4月27日	乾燥シイタケ袋詰め	3名
5月12日	小泊ビオトープ畦塗り	3名
5月26日	小泊ビオトープ田植え	4名
6月9日	保全林の下草刈り	3名
6月15日	クリーンビーチ三崎	18名
6月16日	田の畦草・保全林の下草刈り	20名
6月23日	ドジョウ繁殖池水路の泥上げ	3名
7月14日	保全林の下草刈り	5名
7月28日	シイタケ原木移動	26名
7月30日	クリーンビーチ大谷	21名
9月22日	小泊ビオトープ稲刈り・ハザ架け	12名
10月2日	小泊ビオトープ稲刈り	3名
10月3日	小泊ビオトープ稲刈り	2名
10月4日	稲のハザ架け	2名
10月13日	森づくり準備作業	7名
10月27日	おらっちゃんの森づくり	105名
11月10日	能登建設と合同保全作業	65名
12月8日	ビニールハウス組み立て準備	2名
12月15日	ビニールハウス組み立て準備	8名
12月22日	シイタケホダ木の移動	6名
	保全活動	380名



と言つて、たくさん召し上がってくれました。

夏は、ため池でジュンサイ採りです。高齢化に伴い年々、農業をやめる方が増えていて、ため池の維持管理が難しくなっています。人の手が入らなくなれば、それは里地ではありません。人と自然が共生する里を守っていくには何が必要なのでしょう？

今年は、環境問題に関心のある

台湾とタイからのお客さまを、保全林や栗津の田んぼに案内し、巣箱づくり体験なども行いました。皆さん熱心に話を聞いていただき、喜んでいただけました。今後は、体験型ツアーで私たちの活動を見ていただき、ご支援いただくといいと思います。





地球環境基金 LOVEBLUE助成



2016年度からスタートした地球環境基金の企業協働プロジェクトLOV

EBLUE助成は、今年が最終年度の3年目でした。能登の「里海」文化の継承をテーマに、さまざまな事業を進めてきました。2018年は冬の「記録的な豪雪」、始まり、夏は「殺人的な猛暑」、さらに例年になく多くの台風接近と、異常気象の連続でした。お

げで、中止せざるを得ないイベントもありましたが、里海を「楽しむ」「守る」「知る」の3つの目標について、得るものは大きかったと思います。せっかくスタートした事業です。これからも引き続き、里海の保全活動を続けていきたいと思っています。

里海を楽しむ

おらっちゃんの里海釣り大会

開催日
11/3 土
8:00-12:30
昼食付き親子釣り大会

今年は無題で海の獲った魚をアブリとシーズインのアブリメが！
釣った魚をアブリメが！
釣った魚をアブリメが！
みんな楽しんでみましょう。
初心者も大歓迎！

参加費
大人と子供（小・中学生）2名1組
¥1,000/組
昼食、釣えき代込み
※釣り具は各自持参

スケジュール
8:00 開会式（昼食付き）
8:30 釣り大会開始（鮎島漁港）
10:30 海岸清掃
11:00 表彰式
11:30 昼食

申込みが切
応募必切 10/25（木）まで
※定員あり、お気軽にお問合せください。

お申込み・お問合せ
TEL. 0768-88-2528
mail. satoyamasatoumi2006@gmail.com
NPO法人 能登半島おらっちゃんの里山里海
珠洲市三崎小 33-7 珠洲大学能登支店1階
後援 珠洲市教育委員会

・11月3日 会場を三崎小泊漁港から鮎島漁港に移し、参加する親子も年々増え今年15組です。

今年もキスとアブラメで釣果を競う予定でしたが、アブラメが1匹も釣れませんでした。優勝したのは、田保親子Aチームの「キス8匹」でした。ちなみに2位は田保親子Bチームのキス7匹です。キスの大



物賞は橋本親子の23・5cm、アブラメに変わる大物賞には22cmのキジハタを釣った貞親子に決まりました。釣りを終えた後は、

会場となった鮎島漁港のゴミ拾いです。マナーを守ることは大切

里海を守る

おらっちゃんのクリーンビーチ

市内の小中学校5校と協同で「おらっちゃんのクリーンビーチ」を企画しましたが、天候に恵まれず3校が台風接近や雨天などのため中止になりました。いずれの学校も、プラスチック系のごみ

ダントツで多く、なんとかならないものかと思っています。

中止になった学校は、7月7日（土）の宝立小中学校（見附海岸）、7月29日（土）の鮎島小学校（鉢ヶ崎海岸）、若山小学校（鉢ヶ崎海岸・ビーチホテル前）の3校です。今年初めて参加することになった若山小学校は、校下に海がない山の小学校なので、とても楽しみにしていたのですが残念でした。



・6月15日【三崎地区】みさき小学校4年生11名と小学校前の海岸を清掃しました。当日は、風がとっても強く、曇り空だったので肌寒く感じましたが、子供たちは元気いっぱい、48.4kgの海岸漂着ごみを集めてくれました。

・7月30日【大谷地区】大谷小学校の7、8、9年生10名と

参加無料 **参加募集** **お昼付き**

NPO 法人能登半島おらっちゃんの里山里海設立10周年記念植樹

第10回 おらっちゃんの **森づくり運動**

2018年 **10月27日(土)**

時間 10:50(入) 15:00(出)

会場 能登半島 能登町 能登川 能登川 能登川

活動目的
能登半島自然環境に貢献したクヌギは、10年後に成長し、資源としての価値を生かれます。「人の手で里山を元気にする。花かす」といった本来の里山の機能を回復し、古くから伝わる技術と自然環境を後世に受け継ぐことを目的としています。

お茶会
本会で用意されるクヌギの茶葉は、切り口が細くよく煎れ、別名「裏茶」とも呼ばれています。裏茶は香から「花かす」が感じられる味わいがあります。裏茶は香から「花かす」が感じられる味わいがあります。裏茶は香から「花かす」が感じられる味わいがあります。

当日の日程
10/27(土) 11:30(集合) 12:00(開会) 13:00~15:00(植樹活動)

お申込・交通などの詳細はチラシにてー

主催 NPO法人能登半島おらっちゃんの里山里海 石川県珠洲市三崎町小泊 33-7 TEL/FAX 0768-88-2528
後援 能登半島観光協会 能登川漁業協会の会報 能登川漁業協会の会報 能登川漁業協会の会報

・10月27日(土) ついに10回目を迎えた「おらっちゃんの森づくり」事業。「森は海の恋人」を実現するため、高齢化が進み管理するものがないため荒廃してきた里山に、クヌギを植林する事業です。約10年後には伐採してお茶炭になります。山の持ち主である大野製炭工場さんと協力して、これまでに6000本のクヌギを植林しました。今年も100名

おらっちゃんの

森づくり

教員7名ほか総勢21名で、同校下の海岸を清掃。73・7kgの漂着ごみを集めました。

余りの方がボランティアで参加し、300本の苗木を植えることができました。この森づくり事業は、NPO設立の年から始め、当法人の根幹をなす事業です。これからも、里山を守る活動を続けていきたいと思えます。

里海を知る

おさかな

ワークシヨップ

・2019年2月9日(土) 講師

におさかなマイスターの前野美弥次さんを迎え、三崎町の伏見区集会所でワークシヨップを開きました。

「おいしい干物を作ってみよう！」をテーマに、今が旬のサバ、カワハギ、カマスの3種を捌きました。これも、昨年の釣り大会の時に、せっかくだが釣った魚をさばいたことがないーとの声か



上がったことから、身近な魚のさばき方を習うことにしたものです。最初は、包丁の研ぎ方からでしたが、包丁を使わず割りばしでカマスの内臓を取る方法など、初めて見ました。最後は、さばいた魚のアラでアラ汁をいただきます。ネギととうふとアラだけののに、なんと美味しいことか。

入会のご案内

おらっちゃんの活動に参加しませんか？

会員募集！

持続可能な里山里海の事業づくりに向けて、仲間を募集しています。

<正会員> 運営に携わり、毎月の定例会、1月の総会に参加できます。

年会費 個人 5000円 団体 30000円

<賛助会員> 活動を支援していただき、保全活動に参加できます。

年会費 個人 一口1000円 団体 一口5000円

ご支援のご寄付も受け付けております。

NPO 法人能登半島おらっちゃんの里山里海
理事長 加藤秀夫

〒927-1462 石川県珠洲市三崎町小泊 33-7 金沢大学能登学舎1階

TEL・FAX 0768-88-2528

E-mail satoyamasatoumi2006@gmail.com





自然と人と共生による 未来を考える」 理事長・加藤秀夫



食物や薬、衣服、家など自然の恵みが私たちの命を支えている。

私たちは、未来につなげるのが私たちの目的です。

生き物調査

過去、現在、未来の生物調査を比較することにより、地域の環境の変化や文化の移り変わりを知ることができません。これらの調査は将来の環境問題を解決する糸口になると思います。きれいな水に住む水生昆虫やドジョウを調べています。日本列島を南北に縦断するアサギマダラチョウや豊かな里山里海に生息する野鳥、ま

た、アメリカザリガニなどの外来種は、能登に住む固有のゲンゴロウなどの生物を食べ尽くしてしまふ恐れがあるので駆除活動も行っています。

保全活動

世界農業遺産に認定された能登の里山里海は、人が間伐し、海をきれいにすることにより維持されてきました。炭焼きのために植林し、きりこ祭りに使用する黒松の植林を支援してきました。また、小中学生による海岸清掃を実施し、海洋に漂うマイクロプラスチックの問題について、ともに考えてきました。

教育活動

豊かな自然環境の中で、生き物と触れ合うことで命の尊さを学習し、生き物をよく観察することで、水生生物がどこで、どんな生活を送っているか自ら学ぶこと

ができます。市内の小学生が6〜9月に2回、生き物観察会を実施し、12月にそれを全員で学び合う発表会を開催しています。



農業活動

機械を使つての耕作や、水路をコンクリートで囲むことにより、オタマジャクシや田に生息する貝がいなくなってきました。そこで、生き物の生息しやすい環境で農業を行い、生産した物を販売し、自然環境の保全活動に使うことを行っています。荒廃した林を間伐し、切つた木をホダ木として椎茸栽培



伐し、切つた木をホダ木として椎茸栽培

持続可能な自然環境を保つために

能登半島全体が少子高齢化のため休耕田や荒廃した山林が目立つてきました。私たちは、この問題に関心ある関係機関や関係団体とともに考えて、すぐに行動していかねばならないと考えています。特に若者の定住、地域の連携が欠かせません。これらの課題解決のため多くの方に参加して頂き、多様な意見から解決策を見いだす必要があります。そのためにも当会に加入して頂き、能登の未来について話し合おうではありませんか。

編集後記…この10年いろいろなことに取り組んできたNPOですが、高齢化の波が押し寄せ始めています。来たれ元気な若人！